

寂聴辻説法

瀬戸内寂聴

集英社インターナショナル  
ウェブ立ち読み

借金返済のため、子どもの養育のため、風俗で働きたいのですが、これは罰当たりですか？

子持ちのバツイチの会社員ですが、借金があります。会社の給料が少ないので、借金返済のため、風俗でのアルバイトを考えています。人に言えないようなバイトですし、精神的に辛くなるときがあるでしょうが、子どものためにも覚悟を決めるしかないかなと思っています。仏様はこのような人間のことをどう思われるのでしょうか。(三〇代女性 会社員)

はつきり言いますが、そうやって体を売ってお金を稼いだところで、あなたの借金は減らないでしょう。むしろ簡単にお金を稼ぐことを覚えたことで、ますます金遣いいが荒くなり、生活がさらに荒やむことになるでしょう。その結果、もつともつとひどい状態に墮落たすることは目に見えています。

それを昔の人は「悪銭あくせん、身につかず」と言ったのです。もちろん、仏様もそのようなことはお認めになるわけがありません。

かといって、借金が多すぎて、いくら耐乏生活をしても返せるあてがないというのでは困りますね。どういう理由で借金が増えたか、その事情は分かりませんが、しかし、結局はあなた自身が蒔いた種であるのだろうと思います。

体売るだけの覚悟があるのであれば恥をかいても、ここは弁護士さんや司法書士さんに相談して、自己破産をするなり、借金の整理をしてしまふなりして、ゼロからおやり直しなさい。そして、子どものためにも身を慎んで、借金のない生活を送るようにしてください。

「お金さえあれば問題が解決する」と思って

いるかぎり、あなたは不幸の連鎖から抜け出

せません。

## 2 人と仲良くなれない私。このままではダメですよ。

両親の仲が悪く、愛情関係の薄い家庭で育ったせいか、子どものときから人の好き嫌いが激しい自分のあり方に悩んでいます。ことに嫌いな人に対しては、口も利きたくないし、目も合わせたくないというくらいの状態です。こういう性格ですから、会社に勤めていてもまくは行きません。特に初対面の人との会話は苦痛に感じるくらいです。「このままではいけない」とは思っているのですが、なかなか変わることができません。(四〇代 女性)

詳しくは書かれていないので分かりませんが、きっとあなたは子ども時代から何事も斜に構えて見る性格で、他人のいいところよりも欠点のほうが先に目についてしまうタイプなのでしょう。だから、ひとたび他人の嫌なところを見つけると、その人が許せなくなるし、そばにもいたくないと思ってしまう。

そうしたあなたの気持ちは間違いなく相手にも伝わっているはずですから、相手だってあなた

に好意的に接してはくれません。これでは悪循環の繰り返しで、心の許せる友人ができなくなってしまうがありませんね。

人間というものは、相手が自分に好意を抱いていると感じると、好意でお返ししたくなるし、逆に悪意を抱かれていると思うと、悪意でお返しをしたくなる性質を持つています。猫や犬だって、動物が嫌いな人間のところには近寄ってこないじゃありませんか。人間もそれと同じです。好かれているか、嫌われているか、すぐ分かるものです。

だから、これからのあなたは世間の人に対して、できるかぎり好き嫌いのハードルを下げてください。あなたのようにしてください。あなたも私も含めて、人間というのは欠点だらけの生き物です。あなたのように他人の悪いところ、ダメなところばかり探していれば、たとえ最初はあなたに対して好意的に接していた人でも離れてしまうのは当然です。

さらに言えば、あなたからすれば欠点にしか見えないことでも、他の人から見れば美質（長所）になることだってあります。あなたの「秤」の尺度がツねに正しいとは限らない。そのこともよく心に刻んでほしいと思います。

とはいえ、世の中にはどうしても「この人は苦手」という人間はいるものです。そういう人に対してまで好意的に接しなさいとは言いません。むしろ、苦手な人、嫌いな人と一緒にいると、知らず知らずのうちにあなたの中に悪意という毒が溜まってきます。ですから、なるべくそのような相手には近寄らないようにしましょう。



好きな仕事に就いていますが、収入がなくてぎりぎりの暮らし。それでも働きつづけるべきですか？

仕事のことでも相談させてください。

あと数年、今の仕事を続けたのちに独立したいと考えていますが、それではずつと服も化粧品も買えず、惨めな生活が続くのかと思うと心配で仕方がありません。転職さえすれば経済面は好転しますが、今の仕事は好きなのでそれも諦めたくありません。それでも今の仕事を続けることに価値はあるでしょうか。(二八歳女性 会社員)

今の世界は不安に満ちあふれていますね。

世界的な不景気で職を失う人が増えているし、日本の社会も少子高齢化でこの先、どうなるのか分からない。あなたが「まだ二八歳だというのに、ろくにお化粧やおしゃれも愉しめない生活で大丈夫だろうか」と悩む気持ちはよく分かります。

しかし、そうした暗い面だけを見つめていると、ますます不幸になっていくばかり。お釈迦様は人生は苦に満ちているとおっしゃいました。人は誰もが苦しみや悩みを抱えています。けつして不幸なことばかりではありません。

ご相談をお聞きすると、あなたは自分のやりたい好きな仕事に就いているということですね。この就職難の時代に、自分の好きな仕事ができるということは、それだけでもとても幸福なことではないですか。不安や心配はたくさんあるとしても、その幸運をまず感謝するようにしてください。そうやって感謝の心を持つていけば、自然ともっと幸せになれると思います。

たしかに、お給料が少ないのは何かと不自由でしょうが、他人と比べたりせずに「若いうちはみんなそういうもの」と思えば、苦にならないのではないかとも思います。もうちょっとだけ辛抱して、好きな仕事に集中してごらん下さい。きつと、もつといいことが起きるはず。また、お化粧しないで、スッピンでも仕事ができるあなたの若さにも自信を持つててください。

不幸を嘆くよりも、自分の幸せを感謝しまし

よう。きつと、もつといいことが起きるはず。

会社を辞めてでも、余命いくばくもない母親のそばにい  
るべきでしょうか？

母親が末期癌で「余命半年」と宣告されました。

父親は定年退職しているので母親のそばにいることはできるのですが、やはり年老いた父だけに任せるのは心配です。しかし、私も仕事の都合で長期の休みをとることができません。

介護のために今の会社を辞めようかとも考えましたが、その後の再就職ができるかが心配で、なかなか踏み切れません。仕事を辞めて母親のそばにすることが正しいのでしょうか？（三四歳女性 会社員）

日本もいよいよ本格的な高齢化社会に入ったので、このごろはこうした相談を受けることが多くなりました。病気で苦しんでいるお年寄りも気の毒ですが、その面倒を見る子どもたちもみな苦勞をしています。本来ならば、社会全体でこうした介護の問題を解決していくべきなのでしょう。

うが、残念ながら今の日本にはそうした仕組みがよくできていません。

癌の宣告を受けたお母さんの介護をしたいというあなたの優しい気持ちはよく分かりますが、しかし、お母さんはきつと「あなたのその気持ちだけで十分」とおっしゃるに違いありませんし、ここで仕事を辞めてしまったとしたら、やはりあなたは後悔すると思います。

相談のお手紙では、どんな会社に勤めているかは分かりませんが、せつかく一〇年近くも勤めてきたキャリアです。たとえ介護のためとはいえ、ここで会社を辞めてしまったら、今のご時世では再就職はむずかしいと思います。

それにああなたのお父さんはすでに退職なさっているのですから、たとえ蓄えがあつたとしても、入院費用などがかかります。仕事を辞めたら、そうした費用をどこから得るつもりですか。また、あなた自身の生活費だつてかかることでしょう。そのお金だつてバカになりません。

ご両親に対して孝養を尽くしたいというあなたの気持ちは尊いものですが、もうちよつと落ち着いて考えてみてください。

どんなに深い思いがあつても、人間のできることには限りがあるものです。冷たいようですが、あなたが会社を辞めて看病したとしても、いつかご両親はあの世に旅立つてしまわれます。しかし、あなたにはその後の人生が待っているのですから、軽々に会社を辞めるという選択はしないほうがいいと思います。

ましてやあなたのような優しい人は、きつとお母さんを見送られたあとは深く気落ちして、

「もつと看病をしておけばよかった」「こういうことをしてあげればよかった」と自分自身を責めるに違いありません。そんなふうにに思い詰めないためにも、仕事という心の支えさかがあつたほうがいいのではないのでしょうか。

世間ではとかく「親の介護は当たり前」と無責任に言ったりもしますが、そんな簡単な話ではありません。どれだけ手厚く介護をしても、介護をした配偶者や子どもたちに後悔は残るものですし、また、後に残された人たちにはその後の人生が待っているのです。

介護の相談はたくさん私のところにも持ち込まれてきますが、簡単に答えが出るものではありません。本当にむずかしい問題と思います。

.....  
**人間のできることにには限界がある。あなたの**  
.....

**できる範囲で親孝行をしなさい。**  
.....

# 8

## 夫の愚痴に疲れ果てました。

今年から主人の転勤で、とある田舎町に引っ越してきました。

休日に気分転換をしようにも周りには娯楽などいっさいなく、友人や親戚も近くにおりません。夫は夫で会社での悩みを家庭に持ち込み、私の話を聞いてくれるどころか、愚痴しかこぼしません。どうすればこのような毎日から抜け出すことができるでしょうか。(二四歳女性 主婦)

夫婦といえども、しよせんは他人。

あなたが環境の変化に苦しみ、夫の愚痴を聞くのに疲れ果てていても、それをはつきりと口に出して言わないかぎり、相手が分からなくてもしょうがありません。

ご主人は、あなたに甘えきつていて、だからあなたの悩みに気がつかないのです。世の男性の多くは、自分の奥さんのことをまるで自分の母親のように思っていて、いくらでも甘えていいと考えているのです。しかし、そんなことは女性からすれば、たまったものではありません。

あなたは「はつきり言わなくても、いつか夫は私の悩みに気付いてくれるのではないかしら」と期待しているのでしょうか。でも、ご主人が気付くころにはあなたのほうがきつとダメになつてしまいますよ。

だから、はつきりと「あなたの愚痴に付き合わされるのはもう真つ平よ」と言つてしまひましょう。多少の摩擦を恐れるようでは、本当の愛情関係は築けません。「イヤなことはイヤ」とはつきり伝えるのも、ときとして大事なことです。

もし、それでご主人が怒つて、あなたの辛さに同情してくれないようならば——まだ、あなたは若いのですから、いくらでもやり直しがききます。昔ならば、離婚すれば女性は傷物扱いされたものですが、今はそんな時代ではありません。じつと我慢したりせず言つてしまひなさい。お互いに本音をぶつつけあつてこそ、夫婦というものです。あとは「雨降つて地固まる」という結果になるかもしれませんよ。

.....  
夫婦といえども、しよせんは他人。黙つてい

.....  
たら、あなたの気持ちは伝わらない。  
.....

会社の先輩のいじめに苦しんでいます。でも会社は辞めたくありません。

自分は文句を言うだけで、仕事を人に押しつけてばかり——ところが皮肉なことに、そんな先輩から押しつけられた仕事で上司に褒められました。それ以来、彼女からの風当たりが強いのです。いわれのない陰口も叩かれ、精神的に辛いものがあります。それ以外は会社に不満はないので、辞めたくありません。お局様からのいじめはどうしたら回避できますか？（二三歳女性 O L）

どんな職場にも、そんな人がいるものです。自分も努力をすればいいのに、あなたのように仕事ができる後輩や同僚がいると、それに嫉妬をして陰湿ないじめをする下劣な人は、昔からいるのです。もちろん、あなたは辞める必要はありません。一番簡単なのは、そんなお局様なんて、相手にしないことです。きっと彼女にいじめられているという同僚はほかにもいるはずですから、

逆にみんなで結束して反撃するくらいでも悪くはないと思います。

とにかく大事なのは辛抱しんぼうしないこと。黙って我慢していると体や心の調子が悪くなってしまいます。もし、それでも彼女がはじめを止めなければ、上司にはつきりと伝えて対処してもらおうのも一つの手段かもしれません。ただ忘れてほしくないのは、あなたも仕事を続けていければ、いずれはこのお局様みたいに煙たかぶたがられる存在になる、ということです。

今、あなたをいじめている先輩にしても、同じように先輩からいじめられた過去があるのかもしれないし、また、先輩から見るとあなたは生意なまい気で、礼儀を知らない後輩に見えているかもしれない。せっかくあなたは仕事ができるのですから、そうしたことをちよつとだけ想像するゆとりも持つてほしいと思います。そうでないと、やがてはあなたも、そのお局様と同じようになつてしまいかねません。

いじめに負けてはダメ。でも、あなたもやがて

は「嫌われる先輩」になることを忘れないで。

二股をかけていた彼に復讐をしたいと思うことは間違いでしょうか？

私の彼はオーストラリアに暮らしているイギリス人で、一年半の付き合いになります。私は日本にいたので遠距離恋愛です。

彼に別の女性がいることを知ったのは、彼と付き合い始めた直後のことです。その彼女はオーストラリア在住で、もちろん私の存在は知りません。もちろん、私はそのことにショックを受けましたが、もう身体からだの関係もあり、気持ちものめりこんでいたので、彼と別れることができず、ずるずると付き合い合ってきました。

しかし、最近、ちょっとしたことからオーストラリアにいる彼女が、彼が二股ふたまたをかけていることに気付きましたようで、それで彼は私を敬遠するようになりました。「罪のない彼女を傷つけないから」と、ぬけぬけと言うの

です。

そんな彼を見て、私は別れることに決めました。私に対しては「君は二番目なんかじゃない」と言いながら、隠し通せるならば二股を続けたいと思っていた彼に失望してしまいました。

しかし、ここで私がそのまま身を引いてしまうのも納得がいきません。このまま彼が何事もなかったようにオーストラリアの彼女と幸せになっってしまうのは許せないのです。

できるものならば、オーストラリアの彼女に彼の本当の姿を知らせて、彼女も私と同じように彼と別れてもらいたい。「二兎を追う者は一兎をも得ず」という言葉を彼に思い知らせてやりたいと思うのですが、このような復讐の思いを持つのは間違っていますでしょうか。私の考えていることは醜いことだとは知っていますが、このままで引き下がるのでは悔しくなりません。(三

○代女性 会社員)

復讐をせずにはいられない、というのであれば、やっておしまいなさい。今のままでと、どうせあなたは彼に対して未練を持ったまま、ずっと引きずって生きていくことになります。元はいえど二股をかけた彼も悪いのですし、そんな彼と付き合っているオーストラリアの女性もいづれ同じような目に遭うに決まっています。ですから、どんどんやって、彼を懲らしめてやればいいのです。

こんな回答をすると、世の中の常識人は「坊さんのくせに不謹慎な」と言うかもしれませんが、しかし『源氏物語』を読めば分かるように、一〇〇〇年の昔から女性たちは、男の勝手な理屈で苦しんできたのですから、この程度の煽動をしたってちっとも罰は当たらないと私は思っているのです。

もちろん紫式部の書いた『源氏物語』はフィクション、作り事です。しかし、上質なフィクションはフィクションでありながら、世の中の真実を伝えてくれます。

『源氏物語』の中に出てくる姫君たちはみな魅力的でありながら、誰一人として幸せになれませんでした。それというのも、彼女たちは光源氏というたぐいまれなハンサムのも、しかし身勝手な男に惚れてしまったからです。

光源氏は口先では、それぞれの女性たちに甘い言葉を投げかけ、生活の保障もしますが、しかしながら、一人の女性に満足することはできずに、さまざま逢瀬を楽しんでいく。そんな源氏の行状に対して、平安時代の、男性上位が当たり前だった社会に暮らしていた女性たちでさえ、



夫が突然芸人になりたいと言いました。

ミュージシャン志望だった前夫とは生活苦から離婚、今度は安定した結婚生活を送りたいと思い、四年前に公務員である今の夫と再婚しました。しかし、その夫が突然芸人になると言い出し、私に相談もなく役所に辞表を提出しました。将来に対する不安と、夫に対する怒りでここ数日夜も眠れません。

(三〇歳女性 主婦)

これはご主人に怒るのが筋違いというものです。

あなたには自覚がないようですが、あなたは真面目で堅実な男性よりも、どちらかという根無し草で破滅的な男性が好みなのです。前のご主人がミュージシャン志望で、今のご主人が芸人志望だというのはけっして偶然であるわけがありません。恨むのならばご主人ではなく、そういう人を好きになる自分をお恨みなさい。

これは女性に限ったことではないですが、どれだけ口では「もう懲りた」と言いながら、繰り返し

返し同じタイプの異性を好きになる人がいるものです。あなたの周りにもそういう人はいませんか？ ご本人は気付いていなくても、周りから見れば「また似たような人を好きになっただけ」と思えるような人が一人や二人いるはずですよ。

森光子さんの主演で有名な「放浪記」や「君の名は」で有名な劇作家の菊田一夫さん（一九七三年没）も、そんな一人でした。菊田さんは女性にまめな方で、何人の女性を恋人になさったか分からないくらいです。

菊田さんが惚れた女優さんはみな大女優になるという評判さえありましたが、その菊田さんがあるとき、しみじみ私におっしゃったことがあります。

「ぼくはかわいい、おとなしい女が自分のタイプだと思っていたんだよ。ところがどうも実は頭のいい、気の強い女が好きなんじゃないかと、やっとこのごろ思えてきた。本当はそういう女は苦手なんだけれどね。でも、最初は、かわいくて気のおとなしい女だと思って暮らしはじめたろう。だが、それが二年も経つと、いつの間にかその女がすっかり者の気の強い女になっていて、前の女と同じように僕を尻に敷いているというわけさ」

それを聞いて、私はブツと吹き出して、ついついこう返事をしてしまいました。

「先生はひよつとしてマゾじやないんですか？」

すると菊田先生は別に怒りもせず「そうかもしれないなあ」とおっしゃったものでした。

あなたも菊田先生に似たところがあるのかもしれないね。

自分自身では、公務員のように安定した男性と暮らしたいと思っていても、本当はミュージシャンや芸人のような、波乱に満ちた生き方をする人に憧れているのです。だから、これは相手を恨むのは筋違いというものですよ。かりに、今のご主人と別れてもきつとまた同じような人が好きになるはずですよ。

今のご主人はあなたが好きになって一緒になった人でしょ？ だったら、しょうがないじゃないですか。たしかに貧乏にはなるかもしれませんが、そのご主人を支えておいきなさい。

夫を恨むのは筋違い。そういう人を好きにな

ったのは、あなたです。支えておあげなさい。

学校にも行かず、夢ばかり追いかけている息子に手を焼いています。

今年二〇歳になる息子が大学へほとんど行かず、アマチュア劇団で演劇の稽古ばかりやっています。

学校を辞めさせようと考えたこともありましたが、将来を考えるとせめて卒業はしてほしいと考えています。

どうすれば息子にまっとうな道を歩ませられるでしょうか。(四六歳男性  
公務員)

今の若い人たちの悩みのナンバー・ワンは何かご存じですか？ それは「いったい自分は何をすべきなのだろう」ということです。

つまり、自分が好きなことさえ分らない、学校を出たけれどもどのような生き方をしたらいいか、自分では決められない——大人の私たちから見れば、なんと贅沢な悩みだろうとも思いま

すが、これも日本が物質的には豊かな社会になったからでしょうね。

私たちの若い頃に、こんな悩みを口に出そうものなら親や周囲の大人から容赦なくぶん殴られたものですが、今ではその大人も優しくなったので、誰も叱つたりもしない。「いったい私は何をしたらいいのでしょうか」と悩んで、私のところにも、ひっきりなしに若者がやってきます。

そうした若い人たちに比べれば、あなたの息子さんはやりたいことがはっきり分かっているだけ、ずっと幸せというものです。

もちろん親御さんとしては「せめて大学だけでも」と思うお気持ちは分かりますが、昔ならばともかく今の世の中では、大学卒の学歴があったからといって得をするわけではないし、高卒や中卒でも立派な社会人として働いている人も少なくありません。

だから、演劇に打ち込んで大学を卒業できそうになくても、それほど嘆くことでもないと思います。

また、そこまで一心不乱に一つのことに夢中になることができるのも才能のうちです。演劇の分野で成功できるかどうかは保証しませんが、そうした経験はきつとお子さんの将来の肥やしにもなるはずですよ。

ですから、父親のあなたとしてはご子息が演劇に打ち込むのを止めたりするよりも、むしろ「そんなに演劇が好きならば大学なんか辞めてしまえ。学費がもつたいない」と言つたほうがずっとすつきりするのではないでしょう。ここが子離れ、親離れの正念場と思つて、最後通牒を



## 料理屋をやるという夢を諦めきれません。

有名企業に勤め、妻子もおり、順調に出世もしています。しかし昔から料理屋をやりたいという夢が捨てきれず、先日妻に「いずれ、小さな料理屋をやりたい」と伝えたところ、「そんなリスクが高いことしないで」と反対されてしまいました。

妻の反対を押し切ってまで料理屋をやるべきか迷っています。(四六歳男性  
公務員)

悪いことはありません。お止めなさい。遅すぎます。

もし、それが本当のあなたの夢であるというのなら、この歳になる前に会社を辞めて自分で料理屋さんに勤めて修業をしたりしているはず。真剣に自分のお店を成功させたいと考えれば、そう実行するのが当たり前というものです。また、お店を持つための開業資金を貯めている



## 女性にとって、「結婚をするメリット」とは何でしょうか。

私は今年の秋に結婚する予定です。男性は結婚をして楽になることが多いと思いますが、女性の場合、仕事の他に家事や子育てをすることで、負担が増えるばかりのような気がします。専業主婦ならば違うのかもしれませんが、経済的に仕事を辞めるわけにもいきません。そう考えていくと「結婚をするメリットであるのかしら」と思えてくるこのごろです。(二八歳女性 O.L)

メリットを求めるのであれば、結婚なんかしないほうがいいのです。

愛し合っている二人が一緒に暮らすのは、それで得をするからではありません。愛する人の喜びだけでなく苦しみも分かち合いたいと思うから、人は一緒に暮らしたい、結婚したいと思うのです。そうでなくては、本物の結婚とは言えません。

あなたのご相談を聞いてみると、あなた自身が楽に、快適に過ごせるようになりたくて結婚を望んでいるように思えます。

たしかに、一緒に暮らせば楽しいことも増えますが、それと同時に同じ屋根の下に住むのですから、お互いに衝突して、腹が立つことも増えるに決まっています。いくら相手のことが大好きでいたとしても、しょせん他人なのですから、それは当然のこと。

ですから、楽しいことだけ、得することだけを求めて結婚するのだとしたら、きつと失望することになりますし、何より相手の男性に失礼というものです。悪いことは言わないから、今うちに破談にしまいなさい。破談するのは勇気が要りますが、一度結婚してから離婚するよりはずつと楽ですよ。

損得勘定をしているかぎり、あなたに本当の

恋人は現われません。

お姑さんとの付き合い方に悩んでいます。

私が嫁いだ先のお義母さんはしょっちゅう他人のあら探しをしたり、親族の悪口を言っています。本人はそれほど悪いことだと思っていないようなのですが、聞かされている私は不快でたまりません。

そういう人とは今まで付き合い合うのを避けてきました。今回ばかりは避けるというわけにもいかず困っています。

それにお義母さんはかなり頭が切れる人で、私がちよつと自分の意見を言うおうものなら、すぐに反論されてしまうので、下手なことは言えません。私はお義母さんに今後どのように接して行くべきでしょうか？（三〇代女性  
マスコミ）

あなたはいい人で真面目だから、義理のお母さんの悪い癖をどうにか直してあげたいと思って

いるのですね。

しかし、それは絶対にうまくいかないと思います。ことに相手はあなたのことを「息子のお嫁さん」としてしか見ていないのですから、対等に会話できるはずもありません。ですから、お姑さんに意見をしたりするような考えはお捨てなさい。人間というのはそうそう変わるものではありません。

しかし、だからといってそんなお姑さんであつても、あなたの愛するご主人を産み、育ててくださった人であることには変わりはありません。

ですから、ことさらに嫌ったり、対立したりせず心の中で「うちの旦那様を産んでくれてありがとう」と感謝することだけは忘れないようにして、あとはできるかぎり距離を置くようにしてください。

なぜならば、きつと、あなたがお姑さんのことを嫌っているのと同じくらい、お姑さんのほうも「うちの嫁ときたら……」と思つているに違いないからです。

お互いに顔をつきあわせれば、両方で不愉快になつて、雰囲気が悪くなるに違いありません。別居できればいちばんいいのですが、それが無理ならば、できるだけお互いに干渉しないように努めるのがいいでしょう。

いくら結婚して家族になつたとはいえ、嫁と姑はしよせん他人です。分かりあおう、仲良くしようとしても、うまくいかなくて当然なのですから、あなたもあまり思い詰めないようにしてく

ださい。

お年寄りの性格は今さら変わるわけもありません。仲良くしようと思えるのは無理な相談です。

## 一生、今の夫と添い遂げる自信がありません。

結婚一六年になりますが、いまだに「この夫と結婚してよかったのか」と思うことがあります。これまでも喧嘩をするたびにもう駄目だと思い、また少し経つと頑張ろうかなと思ひ、の繰り返しでした。一生を添い遂げられる夫婦の秘訣とはいったい何なのでしょう？（四〇代女性）

私自身、若い頃に夫と娘を捨ててしまった身ですから、結婚生活の秘訣について答える資格は本当はないのですが、お尋ねですから考えましょう。

しょっちゅう夫婦喧嘩をしていることを気にしておられますが、しかし、もし夫婦がお互いに相手に対して愛情や期待を持つていなければ、相手が何をしようと気にもならず、腹も立たないつまり喧嘩もしないわけですから、喧嘩をするうちはまだ大丈夫なのです。

「添い遂げる秘訣」についてお尋ねですが、大事なことは夫婦といえども他人同士なのだということをお忘れなことです。

夫婦だから仲良くしなければいけない、何も言わなくてもわかり合わなくてはいけないと思いがちですが、そんなことはしよせん無理なことなのです。ですから、長く添い遂げなければ、お互いで歩み寄って、妥協しあつて生きることです。相手に対して、あまり高い期待を持つからイライラしたり、腹も立ったりするのですよ。

喧嘩をするうちは、まだ大丈夫。

## 一五歳の娘との向き合い方が分かりません。

一五歳の娘との関係に悩んでいます。

娘は一人っ子で、中学一年の頃までは何でも話しあえる、人一倍仲のよい母娘だったと思います。成績もよく自慢の子どもでしたが、中学二年の頃からアニメのコスプレにはまり、同じ趣味の年上の子たちと付き合うようになり、それを境に私のことを忌み嫌うようになりました。今では私とはまったく顔を合わそうともしません。私の存在自体を無視し、口を開いても「おまえなんか死んじまえ」と言うだけで、喧嘩にもなりません。

「思春期だから」と思ってこれまで黙っていたのですが、あまりにもひどい状態です。子どもとどう向き合えばいいのでしょうか。(四〇代女性 経宮)

お母さんにとっては娘さんの反抗はショックングなことかもしれませんが、しかし、これはお

子さんが大人になりつつある証拠であり、どんな子どもにもあることで、少しも珍しくはありません。

中学一年生までは仲良く会話もできていたということは、娘さんにとってお母さんは一種の理想の対象だったのだらうと思います。職業が「経営者」ということですから、家庭人としても職業人としても、お子さんにとつてあなたは憧れの存在であつたのでしょう。

しかし、だんだん成長して、自我が芽生えてくるにしたがつて、「自分はお母さんと同じようになれない」と気がつきだしたのですね。大人から見れば、親子でも違う人間なのだし、何も親と同じようになれとは思わないものですが、子どもの受け取り方は違います。「お母さんのようになりたいけれど、なれない」と気付きだしたからこそ、娘さんはあなたのことをかえつて憎むようになったのです。

ですから今のあなたができるのは、娘さんが「私は私、お母さんはお母さん」と気付くのを待つことしかありません。うかがっているかぎりではお酒を飲んだり、悪い友人と付き合っているわけでもなさそうですから、心配することはないと思います。娘さんを信じておあげなさい。

しかし、あなたのお嬢さんのように親に対して真正面から反発するのは、実はまだいいほうなのかもしれません。

私の知っている人の中には、四六時中、お母さんにくつついていないと落ち着かない娘さんがおられるというケースがあります。その子は幼い頃は勉強もよくでき、活発な子どもさんだった

らしいのですが、一五歳くらいになって急にキャリアウーマンのお母さんにまわりつくようになり、それこそ一日中、母親の袖をつかんでいないと安心できなくなってしまうたそうなのです。私は心理学者ではないのでもちろん正確なことは分かりませんが、おそらくこれもまた、何らかの理由で子どもの自我がスムーズに発達できなかったために起きたことでしょう。

このお母さんはバリバリ働いていた人だったので、子どもが離れられないために仕事に支障が出て大いに弱ったようです。時間が経つにしたがって精神状態も落ち着いてきて、やがて自立したそうですが、このケースに比べれば、あなたのお嬢さんは荒れてはいても、外に友人を持ったりしているのですから、ずっとノーマルなのではないかと思えます。

もちろんたった一人の娘さんのことですから心配ではあるでしょうが、あまり考えすぎずにどっしり構えていたらどうでしょうね。

愛しているからこそ、憎んでしまう——それ

が親子というものです。娘さんを信じなさい。

## 妹への劣等感にずっと苦しんでいます。

私は二人姉妹の長女で、三歳下の妹がいます。その妹が来年に海外挙式を予定しているのですが、その結婚相手というのがお医者さんで、実家もお金持ちなのだそうです。

同じ姉妹なのに私は平凡なサラリーマンと結婚した普通の専業主婦……ついつい劣等感を感じてしまいます。また、主人もしょっちゅう「転職したい」と言うほど、今の会社が嫌なようで、育児その他、悩みがつきません。少しでも前向きな生き方をするにはどうすればよいのでしょうか。(二〇代女性 主婦)

あなたは今の妹さんを見て「うらやましい」と思い、コンプレックスにさいなまれているようですが、そんなふうを感じることで自体、私から見ればくだらないことです。

たしかに今の妹さんの人生は順風満帆で、何の不足もないように見えるかもしれませんが。しかし、それは当事者ではないあなたから見れば、そう見えるだけのことで、実は妹さんはこれからの結婚生活に不安を感じていたり、お金持ちで幸せそうに見える相手の実家も、内情はいろいろと大変なのかもしれませんし、お姑さんはきつい人かもしれない。世の中は当事者でないとは分らないこともたくさんあります。なのに、あなたは妹さん夫妻の外面だけを見て、あれこれと妬ましく感じたり、苦しくなっている。それはいわば取り越し苦労のようなもので、そんなことで悩むのは馬鹿らしいかぎりです。

それにたとえば妹さんのご主人が失業して貧乏になったり、妹さんが病気になったりしたら、どうでしょうか。「幸せそうだった妹が不幸になっていい気味だ」と思ったりするでしょうか。そんな浅ましいことを考える人間になりたいと思えますか？

もちろん、子ども時代は喧嘩もしたけれども、仲良く一つ屋根の下で暮らしてきた姉妹なので、すから、そんな具合に妹さんの不幸を願うわけでもないでしょう。

お釈迦様は、この世に生きているすべての人は不幸を抱えて生きていて、一つの例外もないとおっしゃいました。

どんなに立派で豊かな家に生まれた人であっても、その人の幸福が保証されているわけではありません。予想もしない病気になったり、突然の事故に見舞われることもある。また、そう不運に出遭わずに生きてとしても、肉親や愛する人と生き別れ、死に別れていくことは避けられませ

んし、最後にはみんな死んでいくのです。

あなたから見れば妹さんは今は自分よりも幸せに見えるかもしれませんが、しかし、それは今だけの話であつて、長い目で見れば、誰の人生も大差はないのです。そんな些細な違いにこだわりの、心にわだかまりを抱えて生きるよりも、素直に妹さんに「いい結婚相手を見つけれられてよかったね。幸せになつてね」と祝福したほうが、どれだけあなた自身にとつても楽なことか分かりません。

厳しいことを書きましたが、あなたが妹さんに対して複雑な心境を抱くのも、子ども時代、何かにつけて周りの大人たちから「あなたはお姉さんなんだから、しっかりしなさい」と言われたり、あるいは何かにつけて妹さんと比較されてきたりしたせいなのかもしれない。

そう考えると同情すべき点もありますが、でも、妹さんは妹さんで「私よりもお姉ちゃんのほうが両親にかわいがられてきた」「ことあるたびに『お姉さんを見習いなさい』と言われてきた」と思っているのかもしれない。

結局のところ、どんな人も傍から見れば幸福に見えるものです。だから、他人と自分を比較しても意味がないことなのです。

あなたが今の自分の状況について、いろいろと悩みや不満を抱えておられるのは事実なのでしよう。

でも、あなたには妹さんにはない幸せがあるはず。マイナスの部分ばかりを見て、後ろ向

きに生きていくよりも、もっと人生の明るい面を見て、自分自身に誇りを持って生きるようにしてください。そうすれば妹さんとも、もっといい関係を築けていけるはずですよ。

.....

どれほど幸せそうな人にも悩みや苦勞はある。

.....

.....

外見だけで判断して、妬むのは馬鹿らしいこ

.....

とです。

.....

## 口やかましい妻とおおらかに暮らすには？

六五歳の男性です。妻（六二歳）とのことで悩んでいます。

妻は何でも自分が正しいと思う人間で、細かいことまで口やかましく、いったん言い出したら聞く耳を持ちません。これまでは適当に聞き流していましたが、近ごろは本当に嫌になってきています。

妻とはおおらかに暮らしていきたいのですが、どうしたらよいのでしょうか。（六〇代男性 専門職）

六〇歳を過ぎた人間の性格など、今さら変えようもありません。そもそも、彼女がそのような性格をこれまで改めようとしなかったのは、一番近くにいるあなたが本気で忠告して来なかったせいではありませんか。これまでそうした奥さんの行動や発言を放っておいたのはあなたです。

また、奥さんのことが今になってイヤになったというのも、お子さんたちが自立し、ご自分が

定年近くになつて家に長くいるようになり、奥さんと一緒にいることが多くなつたからではありませんか。だとしたら、ずいぶん自分勝手な理屈というもので、あまり同情する気にはなれませんか。

そもそも、何十年も連れ添つてきて、奥さんのそんなきつい言動を許していられたというのは、やはりあなたなりに奥さんのことを愛してきたからでしょう。

ですから、たとえ奥さんから毎日、がみがみ叱られたとしても、とやかく文句を言わずに最後まで添い遂げていくことだと思います。

また、あなたに対して奥さんが何かと注文をつけてくるのも、彼女なりの愛情表現なのかもしれないよ。

不平不満を言い出せば、誰だつてきりがありません。少し視点を變えて、奥さんとの關係を見直してごらん下さい。きっとあなたの感じ方も変わるはずだと思います。

.....

そんな奥さんにしたのは、他ならぬあなた。

.....

.....

ちゃんとその事実と向き合いなさい。

.....

## 弟を変えることはできないでしょうか？

三七歳の弟がストレスから鬱病と診断され、休職中です。最初の会社も七年くらいで辞め、今度も五年ほどで同様の状態です。性格は真面目で一直線ですが、どうも上司と合わないことが多いらしいのです。話し好きでよく気の利く、悪い人間ではないのですが、傍から見ると自信過剰にも見えるようです。義妹と子どものためにも、何かよい自己改革の方法はないでしょうか。

(五〇代女性 会社員)

弟さんに対する、あなたの思いやりの心はよく分かりますが、心の病気になっているとはいえ、かりそめにも弟さんは一家の主です。あなたにとっては何歳になっても「かわいい弟」かもしれません。妻や子どももいる男性です。年齢にしても、あなたと弟さんとは一回り以上、歳が違います。いくら女性のほうが平均寿命が長いといっても、いつまでも弟さん一家の面倒を見るこ

ともできません。ここはやはり一定の距離を置いて、弟さんとそのお嫁さんたちの判断に任せたく  
ほうがいいと思います。

これは勝手な想像ですが、弟さんが社会に対してうまく適応できないのも、ひよつとするとあ  
なたのようなしつかりしたお姉さんがいることに甘えているせいなのかもしれません。

弟さんのことが心配であるならば、むしろ弟さんに対して「いろいろと悩みがあるのならば、  
お嫁さんとちゃんと相談して身の振り方を考えなさい」と突き放したほうが、弟さんのためにも  
なるのではないかと思います。

一人前の男にあれこれ干渉するのはお止めな

さい。それが本当の愛情です。

## 内縁関係にあった夫と同じ墓に入りたい。

内縁関係の主人を病気で亡くしました。籍を入れていなかったのも、葬儀には一般の参列者として参加しました。初盆のときに、主人のご両親から分骨をしていただきましたのですが、分骨証明書をもらっていないと納骨しようにもできないことが分かりました。

お寺に相談してみたところ、「証明書がなくても自分の家の仏壇に納めておくことはできるけれども、お墓や納骨堂には入れられないのだ」と言われました。今さら主人の実家に頼んでも、絶対に分骨証明書を出してもらえないのではありません。この場合、私が死んでも一緒のお墓に入ることはできないのでしょうか。(五〇代女性)

亡くなったご主人と一緒にのお墓に入りたいというお気持ちはよく分かります。しかし、相談に

もあるように火葬の後に分骨をしてもらって、それを別のお墓に納めようとする場合、火葬場や元々のお寺から証明書を出してもらわないと、別のお寺や霊園などに葬ることができないのが法律で決まっています。これは要するに、誰のものだか分からない遺骨を葬ることができたら犯罪の助けになるという理由から決められていることなのでしょうが、この決まりがあるためになかなか簡単に分骨ができないのが現状なのです。

こうした規則があることはほとんどの人は知りません。ですから、あなたがせっかくお二人で入るためのお墓を用意していたのに、証明書一つのために一緒にお墓に入れないのは本当にお気の毒だと思います。

しかし、相談なさったお寺の方がおっしゃるとおり、別に納骨しないと成仏できないということではありませんし、むしろお骨をそばに置いて暮らすほうが愛した人への何よりの供養にもなると思います。

そこで肝心の、あなたが亡くなったあとのことですが、これはあなたが心から信頼できる人にあらかじめ頼んでおいて、あなたの遺品の一つとして、ご主人のお骨と一緒に埋葬してもらうに手配しておけばいいと思います。弁護士さんや司法書士さんをお願いして、その旨を記した遺書を正式に作っておけば、さらに安心できるでしょう。

でも、そんな面倒なことをするくらいならば、いつそのことそのお骨を食べてしまうのも悪くないと思いますよ。実際、私の知っている女性の中にも「愛する人と一つになりたいから」と、



娘のクラスメートと不倫をしている元妻を許せません。

考え方の食い違いから二年半前に離婚して、今は二三歳と二一歳の二人の娘と暮らしているのですが、離婚前から元妻が次女の中学時代のクラスメートと不倫していたことを知りました。次女は母親が同級生と付き合っていることを知りません。事実を知れば自殺でもするのではないかと心配でなりません。元妻に問いたただいたのですが、その返事は「ばれなきゃいいじゃん」でした。元妻の兄や姉に相談しても「本人同士が好きなら仕方ない」と言われて、人が信じられなくなりました。今は妻を憎む気持ちでいっぱいです。(四

○代男性 会社員・専門職)

正直に言えば、私はあなたがなぜそんなに怒るのか、憎むのかさっぱり分かりません。

そもそも恋愛は世間の常識で縛れるものではありません。あなたから見れば、親子ほども歳の

違う相手と付き合っている元の奥さんの行動は信じられないかもしれませんが、そうしたことは世の中に掃いて捨てるほどあります。しかも、あなたはすでに離婚した身なのだから、元の奥さんが何をしようが関係ないではないですか。娘さんへの影響が心配だと言いますが、その娘さんも成人しているのだし、今は何も知らないのだから心配しても何の意味もありません。

結局のところ、あなたはまだ元の奥さんに未練があるから、こうしてあれこれ理屈をつけて言いがかりをつけているだけにしか私には見えません。しかし、もう奥さんの心はあなたから離れているのですから、騒ぎ立てても何の意味もありません。すでに奥さんとは縁が切れてしまったのですから、さっさと気持ち切り替えて生きるようになさい。

お嬢さんたちも口に出して言わないまでも、いつまでも過去を引きずって、別れた奥さんのことを憎んでいるお父さんのことを心配していると思います。年頃の娘さんたちの将来のためにも、憎しみの感情から早く脱却し、前向きに人生と向き合うようになさることをお勧めします。

恋愛感情は世間の常識で縛れません。余計な

お世話な止めなさい。

## 自殺した弟——悲しみが癒えません。

三年前に弟が自ら命を絶ちました。心の病と診断された弟が、その辛さから逃れるために選んだ道なのだと理解するように努めました。が、今でも受け容れることができません。どうしたら弟の死という現実を受け止められますか？ また、こういう形での死に方は仏教では認められるものなのでしょうか。(二〇代女性)

今の日本では毎年三万人以上の人が自殺をしています。その数は交通事故で死ぬ人よりも多いというのですから、自殺の問題はとても深刻なテーマですね。

仏教の教え一般としていえば、自殺はやはり肯定されるものではありません。生命というのは、いわば天から与えられたものなのですから、その命を人間の判断で勝手に絶つのは認められることではないのです。

ただ、同じように自殺を認めないキリスト教と違って、仏教ではどんな形で亡くなったとして

も死んだ人は仏になるという考え方をします。

自殺をする人の多くは鬱病状態になっていて、いわば普通の精神状態ではないから自死という間違った判断をするのだと精神科のお医者様は説明しています。

それはそれで事実なのでしょうが、やはり当人としては「これ以上生きていくには、あまりに現実が辛くて耐えられない」と思い定めてのことでしょうし、また、病気になるって仕事を続けられなくなったりして家族に迷惑をかけるくらいならば、死んだほうがいいと真剣に考えてのことだとは思うのです。

もちろん、自殺を考える人たちは残された家族や恋人がどれだけ悲嘆に暮れ、あなたのように自分を責めつづけるのか、そこまでは思い至らないから死ぬるのであって、やはりそこは心の余裕がまったくなくなってはいるのでしょうか。

しかし、だからといって、私は自殺を選んだ人たちを一概に責める気持ちにはなりませんし、むしろ残された者としては「これでようやく楽になれたね、よかったね」と成仏を祈ってあげたほうがいいようにも思います。

三年前に亡くなった弟さんに対して「もっと助けてあげられたのではないか」「私が支えてやれば死ななかつたのではないか」という思いが尽きないあなたのご心情はお察ししますが、いつまでもそうやって嘆き、自分を責めているよりも、むしろ弟さんの冥福を祈ってあげてほしいと思います。



## 孫を独占したがる義理の両親。

建物こそ違うのですが、夫の両親と同じ敷地の中で暮らしています。義理の両親、特に義母が私の長男（三歳）を「息子（私の夫）に似ている」と言っ  
ては溺愛でんあいするので困っています。ちなみに次男（ゼロ歳）のほうはあまり興味がないみたいです。

いつも長男を手元に置いて独占したがる義理の両親のやり方では、子どもを甘やかすばかりだと思うのですが、夫はそんな私の気持ちをも少しも分かってくれず、助けてもくれません。

そんな義理の両親との付き合いが苦痛でならず、「いけない」とは思いながらもついつい子どもたちに入つ当たりしてしまい、自己嫌悪です。いったい、どうしたらいいでしょうか。（二〇代女性 主婦）

あなたはひじょうに古風な考え方の持ち主のようですね。

今どきのお嫁さんならば「我が家には我が家の教育方針がありますから、お義母さんは口を出さないでください」と、最初から拒否をしているところでしょう。

昔ならば、そんなふうにお姑さんおぢいさんに口答えをすることなど許されませんでした。「嫁の分際ぶんざいで何を言うか」と一蹴いっしょくされるのが普通だったから、お嫁さんのほうもじつと我慢をしていました。

あなたの姿を見ると、そういう古い時代のお嫁さんの姿を思い出します。今どき珍しいお嬢さんだと思えます。

しかし、はつきり言いますが、今さらお姑さんの考え方を変えさせようと思っているのならば、それは無駄なことです。

お姑さんはいくつか分かりませんが、五〇代か六〇代の方でしょう。そのくらいの年齢の人が、あなたのような若い女性の意見を聞くはずありません。ですから、お姑さんが孫を猫ねこかわいがりにかわいがるのを控えさせようとするのは、最初から無駄な努力というものです。また、お姑さんからすれば、やはり孫がかわいくてしょうがないわけで、けっしてあなたに対して悪気わるきを持って、そうしているわけでもないでしょう。

ですから、これは考え方を変えて「お姑さんが子どもの面倒を見てくれるし、お小遣こづかいいも出してくれるから、こっちは助かるわ」と思うのが一番いいのですが、しかし、離れたところに住んでいるならばともかく、同じ敷地内ということであれば、そこまで割り切ってお考えなさいとい

うのも現実には無理でしょう。

だとすると、これはやはりあなたのご主人に訴えることですね。

といつても、男性は日中は外に働きに出ていますから、日頃、あなたがどのようなことに悩んでいるのか、よく分かっているし、むしろ、自分の母親が孫の面倒を見てくれてありがたいという程度のことしか考えていないから、奥さんと母親のどちらにもいい顔をしようとするものです。

しかしそれではどうにもならないので、最初からあなたが強気に出て「子どもの教育方針は私が決めるから、甘やかさないようにお義母さんにあなたから言ってください。ちゃんと伝えてくれなければ私は離婚します」と脅かすくらいの覚悟でないと効き目がないと思います。

あなたにしてみれば、離婚話まで切り出すのは過激に思えるかもしれませんが、あなたがお姑さんに対して不満に思っているのと同じくらい、お姑さんもあなたについていろいろと気に入らないところがあるはずですよ。

そういう関係が続いていると、一番困るのが小さなお子さんたちです。お母さんはお祖母ちゃんの悪口を言うし、お祖母ちゃんはお祖母ちゃんでお母さんの悪口を言う。あなたの相談文を見ると、すでにそうしたことも起きています。

愛する母親とお祖母ちゃんの双方から悪口ばかり聞かされている子どもがかわいそうです。だから、多少の波風が立つのは覚悟してでも、ご主人を巻き込んで、たとえば「孫をかわいがるの

はいいけれども、ご飯はかならずこちらで食べさせること」とか「むやみにオモチャを買い与えない」といったルールを決めるべきなのです。

ここで我慢するのは簡単ですが、同じ敷地の中でこれからも何年、何十年と一緒に暮らすのですから遠慮しては、いずれはもつと大きな問題になって取り返しのつかないことにもなりかねません。ご夫婦の絆きずなを強めるいいきっかけにもなるはずですから、ご主人に切り出してごらん下さい。

「お姑さん問題」の解決には、夫を巻き込む

ことが何よりも大事。

念願の管理職になれましたが、職場の中で孤立感を感じています。

半年前に念願の管理職へ昇進しました。しかし、その立場になってみると今まで気がつかなかった職場の他の女性たちとの、仕事に対する意識の違いが浮き彫りになり愕然としてしまいました。

もちろん他の人間とはうまくやっていきたいのですが、部下として他の女性社員に接すると、ついつい彼女たちの甘い考えに腹が立ち、厳しく当たってしまいます。

こんなふうにストレスを溜めて生きていいのだろうか、一人の女として考えたときに、はたして自分は幸せなのだろうか。そう思うと不安です。いったいどのように対処していけばいいでしょうか。(三〇代女性 会社員)

あなたが周囲の同僚、ことに若い社員に対して腹が立つのは当然のことです。社会に出たばか

りの若い人たちはやる気はあっても、足りないこと、分からないことがたくさんある。だからこそ、あなたのようなしつかりした人を上司につけようというのが会社の考えなのですから、いちいち腹を立てていては体が持たないというものですよ。

そもそも、あなただつて会社員として未熟みじくだった時期があるはずです。新入社員の際には先輩の社員から同じように思われていたに違いありませんし、ひよつとしたら今のあなたが部下に対して言っていたようなことを、かつてはあなた自身が言われていたかもしれない。でも、人間というのは往々にして自分に都合の悪いことを忘れて、他人のアラばかりが見えてくるし、自分だけが不幸で孤独に思えてくる。

あなたが心配に思っているように、今のままの調子で部下に接していたら、あなた自身がお局おぼく様と呼ばれ、「嫌な女」になってしまうでしょう。ですからここは、十のことを言いたくても一か二に止めておいて、じつと我慢して部下の成長を待つしかない。言い換えれば、そこで我慢できるかどうかあなたがあなた自身が管理職として成長できるか、できないかの分かれ道なのです。

それに考えてもごらん下さい。一から十まであなたの言うことを「おっしやるとおりです」なんて言っている部下がいたら、そのほうがおかしくて、気持ち悪いではありませんか。そんな部下をうかうかと信用したら、かえって足をすくわれかねません。

どんなことでもそうですが、仕事は一人ではできません。誰かが助けてくれ、力を貸してくれてこそ目標は達成できる。大きな仕事、責任ある仕事をしようと思うならば、なおさら部下の力

を借りなければ何もできません。そんなときに部下の欠点ばかりを見て、批判していたのでは誰もついてきてくれないどころか、誰も助けてくれなくなりです。むしろ、少しでもいいところがあれば、その場で褒めていくのが管理職の仕事というものです。

もちろん未熟な部下を育てるのは面倒なことではあるでしょうし、腹も立つでしょう。しかし、ここはあなたが成長するチャンスと思つて、周囲のみなが気持ちよく働いてくれるような心配りをしてもらいなさい。

.....

誰でも最初は未熟者です。あなただって、最

.....

初は未熟者だったのです。それを思い出して

.....

ください。

.....

子どもたちの病気の原因は、私の過去の因縁でしょうか？

四六歳の女性です。一八歳になる長男が先天性の心臓病を持ち、一六歳の次男は、二年前に骨肉腫こつにくしゅという小児がんけいがんに罹かかりました。二人とも手術などの治療を経て、今は学校に通っていますが、長男の心臓は将来機能不全になる恐れがあり、次男のがん再発率もゼロではありません。

私は子どもの死の恐怖から、現在神経科で抗鬱剤こううつざい、抗不安剤こうふあんざいの処方を受けていますが、それでも心が休まりません。

すべての物事ものごとには原因があり、子どもたちの病気の原因も私のさまざまなおちおちにあるのではと思うと、悲しくてなりません。

妊娠中にもかかわらず、ストレスの強い仕事を続けていたこと、あるいはタバコの煙の立ちこめる職場ですっと働いていたこと……そうしたことが子

.....  
子どもの病気につながったのではないか、などと思うのです。死の恐怖、罪の意識を乗り越えるには、どうすればよいでしょうか？（四〇代女性 会社員）

あなたはしきりに過去のことを反省しておられますが、子どもたちの病気に対して、あなたが罪悪感を持つ必要はどこにもありません。

たしかに、お釈迦様は「因果」「因縁」の教えを説いておられますが、それはおおざっぱに言ってしまうと「私たちの心の中にある煩惱が原因になって、すべての苦しみが生まれている」ということであって、いわゆる「親の因果が子に報い……」などといったことはいっさいおっしゃっていません。

世間には、何か家庭に不幸が起きると「それはあなたが先祖や親兄弟のお墓参りをしていないからだ」とか「家相が悪いのだ」などと言う占い師がいますが、仏教ではそうした話はいっさい認めていません。

そもそも宗教とは人の心を安らげるためのものです。崇りなどを持ち出して人を脅して不安にするような教えは、宗教の名に値しないインチキです。むずかしい言葉でいえば、そのような教えは「淫祠邪教」というのです。

たしかに、あなたのお子さんは病気になったのは事実でしょうが、しかし、人間ならば誰でも

病気になるものですし、しかも、あなたの二人のお子さんは今ではむずかしい病気も癒えて、学校に通っておられるのですから、見方を変えれば、あなたほど幸福なお母さんはいないとも言えます。

世の中には、お医者さんでさえ、さじを投げるような難病で、若くして死んでいく子どもたちがどれだけ多いことか。そのようなお子さんを持ったお母さんたちから見れば、あなたは本当の幸福者というものです。

それなのに、あなたは将来に対して不安ばかりを感じ、心配しなくてもいい心配をしておられる。そんな具合に、つねに恐怖に駆られて暮らしているお母さんの姿が、子どもたちの目にどのように映っているのか、私はそのことのほうが心配です。

あなたのお子さんを幸せにしたければ、まずあなた自身が毎日、子どもに笑顔で接してあげることです。言い古された言葉ではありますが、「病は氣から」というように、あなたがにこやかに、生き生きとしていれば、子どもたちの精神は落ち着き、きっと体調ももっとよくなるはずですよ。

過ぎたことをあれこれ悩んだところで何が変わるというものではありません。それよりも、まずは今の自分を大切にしてください。

病院に通っておられるというのですが、きちんとお医者さんの言うことを聞いて、あなた自身の病気を治すことが先決です。

自分が幸せだと感じられない人が、どうして他人を幸せにできましよう。そのことをよくよくお考えなさい。子どもたちが大事ならば、自分をまず大切にしてください。そうすれば、すべてがうまくいくようになります。

.....

そんなことを心配する暇ひまがあれば、お子さん

.....

.....

たちに笑顔を見せてあげなさい。

.....

会社の存続か自分の利益か、経営者としての岐路に立たされています。

私はある電機メーカーに部品を卸す工場を営む、会社経営者です。現在社員が九〇名おり、身体障害者も多数雇用し、とある経済紙からも称賛を受けました。

しかしこの不況のあおりで現状のままでは二年で資金繰りに行き詰まるこゝろが分かってきました。そんな折に、取引先のメーカーから「役員として会社に来ないか」と誘いを受けました。ただしその条件は年内に会社を閉じ、全社員を解雇することだということです。

家族のこともあるので、会社を整理して転職すべきなのか、それとも最後まで諦めずに、社員とともに今の会社で頑張っていくべきなのか悩んでおります。(四〇代男性 経営者)

本当に不景気な世の中になりました。政治家たちやマスコミはいろんな景気対策や雇用策を打ち出していますが、この日本の不景気はちよつとやそつとでは回復しないと思います。経営者として、ほんとうにご苦勞をなさっていると同情します。

私自身は経営者になった経験はありませんが、それでも寂庵には一〇人近いスタッフがいます。この人たちは私の仕事を手伝ってもらうために働いてもらっているのですが、ときに「スタッフにお給料を払うために、こうやって幾晩も徹夜して原稿を書いたりしているのかしら」と愚痴をこぼしたくなることもあります。

しかし、やはりこのスタッフが手伝ってくれているから私はこうやって小説を書けたり、いろんな人に会うゆとりが生まれてくる。そうしてみれば、やはり寂庵のスタッフは私の家族であり、仲間であつて、単なる「従業員」ではないのだとしみじみ思ったりもします。

そこで私なりに考えると、「最後の最後まで努力をする」というのは一人の人間の生き方としては悪くないことかもしれませんが、あなたが自分の美学を押し通すことで、身体障害者の方も含めた九〇名の従業員たちがある日、突然、職を失うことになれば、それこそ弁護の余地がないというものでしょう。

あなたが会社を今たむにしても、また続けて行くにしても、とにかく従業員の人たちに「このままでは二年で会社が倒産する」ということを伝えることが先決であろうと思います。

それを知った従業員の人たちが「どうなるか分からないけれども、社長と一緒にこの会社を支

えていきたい」と考えるのか、それとも「だったら、少しでも退職金がもらえるうちに辞めたほうがいい」と思うのか、それを問うことが大事ではないでしょうか。「社員は家族同然」というのならば、洗いざらい真実を伝えたほうが誠実ではないかと思えます。

私もかつてある会社の経営者から似たような相談を受けたことがあります。

その会社はあなたの会社よりもずっと大きくて、二〇〇名以上の従業員を抱えていたのですが、やはり経営が思わしくなかった。

そんなところに他の会社から好条件の合併話が持ちかけられたのですが、その会社の人たちは自分の会社の経営状態もよく知らないうえに、名門企業としてのプライドが高いものだから「あんな会社に吸収されるなんて真つ平だ」という反応だったそうです。そこで困り果てた経営者が私のところに相談にいられたのです。

私はその話を聞いて、即座に「このままでは会社がダメになるのが分かっているのですから、変なプライドなんか捨てて合併するしかないじゃないですか」と答えました。

その経営者は私の意見でようやく決心をしたのでしょうか、社員を全員集めて「この合併話を受け入れない限り、我が社は立ちゆかなくなる。もちろん、吸収合併されるのがイヤだという社員もいるだろう。そういう人には退職金など、できるかぎりのことをするから辞めてくれていい。合併したら大変だろうが、新しい会社で私と一緒に頑張ってくれないか」と挨拶したのだそうです。

そうしたら、それまでは合併反対派だった人たちも「うちの経営はそんなに大変だったのか」とびっくりしたのだそうですが、結局、誰一人として辞めることなく合併して、今でもちゃんと経営を続けているようです。

どんな優れた経営者であろうとも、今のような大不況では会社が赤字になるのもしようがないことだし、恥ずかしいことでもない。人智には限りがあるのですから、失敗することもある。大事なのはそうしたときに、現実をちゃんと見つめて、社員や取引先に誠実に対応できるか、ということではないかと思えます。

.....

従業員は家族であり、仲間であることを忘れ  
.....

ずに。  
.....

美しかった叔母の変わり果てた姿を直視できません。

幼い頃から私をかわいがってくれていた叔母が、二カ月前に脳梗塞のうこうそくで倒れました。今は医療機器につながれて人工的に生かされている状態です。

意識もなくベッドで横たわる叔母を見て、あまりの変わりように背筋せすしが寒くなり、隠れて病院のトイレで吐はきました。そのシヨックなまなまが生々しくて、その後、家族から見舞いに誘われても、さまざまなお実を作って病院に足を運んでいません。

「あんなに愛してくれていた叔母に対して、なんて自分は冷たいのだろう」と思い、夜も眠れなくなってきました。どうしたらいいのでしょうか。(二〇代女性)

今の時代は核家族化が当たり前になってしまったので、こういうナイーブな質問が出るのでしようね。

昔は大家族が普通で、どこの家にもお年寄りが小さな子どもと同居していたし、また人が亡くなるのも病院ではなく、自宅の畳の上というのが常識でした。ですから、老いて、病気になるれば、どれほど若いころには美貌を誇った人でも変わり果てた姿形で死んでいくのだという事実は、どんな子どもでも知っていました。

しかし、高齢化社会と言われながら、今の日本の若い人は日常生活の中でお年寄りと接することもないし、ましてや寝たきりの老人を間近で見える機会がほとんどない。だから、あなたのように愛してくれた叔母さんが変わり果てた姿になったのを見てショックを受け、それに嫌悪感を抱くのです。

老いや病の現実には誰だって見たくないし、目をそむけたくなくなるのが人情です。やがては自分もそうなるのだと思えば、なおさら、そうした光景から逃げたくもなります。

ですから、あなたが叔母さんの姿を見て背筋が寒くなる感覚に襲われたとしても、ちっとも薄情なことではない。むしろ、それが普通の感覚です。ですから、過剰に自分を責める必要はどこにもありません。

私だって、年来の友人が病気で倒れたと聞き、慌てて見舞いに駆けつけければ、普段とは違ってお化粧もしていない友人の、変わり果てた姿に正直、ショックを覚えるものです。私のように九〇年近く生きていてもそうなのですから、あなたがそう思うのは無理ありません。

ただ、今は若くて肌もきれいなあなたも、やがては叔母さんと同じようにしわだらけになり、

やせ衰はたえて死んでいくのです。だから「今の叔母さんの姿は将来の自分なのだ」とも思っ  
てほしいと思います。そうすれば、単に汚いとか、怖いといった以外の感情もあなたの中に生まれる  
のではないでしょうか。

誰だって、死や老いは怖い。それを恥じる必

要はどこにもありません。

## 子育てや家事と仕事の両立は可能でしょうか。

今は専業主婦として、小学校三年の子どもを育てていますが、近い将来、飲食店をやりたいと思っています。夫は賛成してくれていますが、もし開業すればやはり家を空けることになります。そうなったときに、家族の幸せが失われはしないか不安で、行動に踏み切る決心がいまだにできません。(四〇

代女性 主婦)

あなたが思うよりも小学校三年生は物事が分かってきているものですよ。飲食店を持つことがお母さんの年来の夢であったこと、そしてその夢を実現させて、真剣に仕事に取り組んでいる姿を見せることも立派な家庭教育です。ましてやご主人は賛成してくれているのですから、躊躇せず(ちゅうちゅうせず)に飛び込むべきです。

どんなことでもやろうと思えば障害の一つや二つはあるものです。そこを気にして「失敗したらどうしよう」「何か事件が起きたらどうしよう」と不安を持ちだしたら、どんなことでもうま



## 母親に暴力を振るう父親。

同居している両親のことで悩んでいます。

父は母への束縛<sup>そくばく</sup>や独占欲が強く、昔から母に暴力を振るってきました。母はそんな父の暴力や執拗<sup>しつよう</sup>な嫉妬<sup>しつと</sup>、妄想<sup>もうそう</sup>に苦しみながらも、私と弟を育ててきました。

私が社会人になってからは、暴力はなくなりましたが、些<sup>せ</sup>細<sup>さい</sup>なことで「母は不倫している」と思い込み、母を攻撃します。もちろん母には、そんな経験は一つもありません。

父親の言動を見ると、精神面に問題があるのではないかとも思うのですが、本人は自分が正常だと思いつ込んでいるので医者にも連れていけません。母は過去に離婚も考えたそうですが、父の性格からして、離婚の話をした

だけで逆上して何をしでかすか分からないので諦めたそうです。

このままでは両親のことが心配で、独立して生活もできず、ましてや結婚など考えられません。いったいどうしたらいいでしょうか。(二〇代女性 専

門職・医療関係)

たしかに最近では、さかんにDV(ドメスティック・バイオレンス＝家庭内暴力)の問題が叫ばれています。

私の知っている例でも、外面ではひじょうに仲がよさそうに見える夫婦がいたのですが、実は日常的にご主人が奥さんに対して暴力を振るっていて、最後には警察に駆け込んでようやく離婚できたという話があります。これに限らず、そうした暴力的な配偶者に困っている女性は世の中にたくさんいるのは事実です。

しかし、夫婦のことは、たとえば実の子どもであっても——いや、実の子どもであればこそ、なかなか分からないという面もあります。

あなたのご家族の場合は、先ほどの例とは正反対で、外から見えていたら、毎日諍(いざ)いばかりをしているように見えますが、実は他人には理解できない形の愛情で結ばれているのかもしれない。あなたのお父さんがお母さんに対してつねに猜疑(さいぎ)心を抱いて、束縛(くわく)しているのは、愛情の裏返し

とも受け取れます。

お母さんが二〇年も連れ添ってきて、いまだに離婚していないというのも、そうした気持ちがかかっているので、最後のところではお父さんを許しているからかもしれないかもしれません。

こうした夫婦の機微は、第三者からはなかなか分からないものです。あなたに対してお父さんの愚痴をこぼすときと、夫婦二人きりになったときにお父さんに向けるときとで、お母さんの表情はぜんぜん違っていても、けっして不思議ではありません。

お父さんが暴力を今でも振るいつづけて、お母さんの生傷が絶えないというのであれば別ですが、そうでないのであれば、あなたが生まれる前から連れ添ってきたご両親のことはご両親に任せて、自分の幸せをお考えなさい。

まずは両親から離れて自活をし、素敵な男性を見つけて恋愛をすることです。

それでもどうしてもお母さんのことが心配だというならば、あなたが自分のサラリーでアパートを借り、お母さんを引き取ればいいだけのことで、実はそうむずかしく考え込むほどのことでもありません。むしろ、あなたのほうが両親から独立できていないのかもしれないと私は思っています。

もう一つだけアドバイスを付け加えるとするならば、もし男性と付き合うときには「絶対に私に手を上げないでね」と約束してもらってください。人間というのは不思議なもので、一番憎んでいるはずの肉親に似た人と恋愛したり、結婚したりするものです。それだけは避けたほうがいい

でしよう。

夫婦のことは他人には分かりません。まして

や肉親だとますます分からないもの。

医師を目指していましたが、挫折しました。

私は子どもの頃から医師になりたいと思っていましたが、大学受験に失敗し、一年浪人をして再挑戦したのですが、夢は叶わず、別の学部に入りました。しかし、それでもやはり医者になる夢は捨てられなくて、休学をして受験勉強をしたのですが、またしても不合格でした。

経済的、精神的にも支えてくれた両親にも大きな迷惑と喪失感を与えてしまい、自分が憎くて憎くて情けなく感じます。かといって、これからどうしたらいいか分からず、途方に暮れています。

今さら大学に復学しても、年齢の関係などで就職はむずかしいでしょうし、そもそもこれから何を目指して生きていけばいいかも分からず、苦しい毎日を送っています。こんな親不孝者は生きている資格もないのではないかとさ

.....  
え思います。夢も未来の希望もない私は、これからどうしたらいいでしょう  
か。(二〇代女性)

この医師不足の時代に、お医者さんになりたいというあなたの気持ちはたいへん貴重なもの  
とは思いますが、しかし、相談文を読んでいると、あなたがはたしてどれだけ本気で医者になり  
たかったのか、私は疑問に感じます。

私がかつて故郷の徳島で開いていたこくとうしやう寂聴塾の塾生の中に、ある資格をどうしても取りたいとい  
う女性がいきました。その資格は勉強もたいへんで彼女は何度も試験を受けたのだけれども  
合格できずに、周りまわりはもう「いい加減にしたら」と止めたくらいです。しかし、彼女はそれでも  
諦あきらめずに何度も挑戦を繰り返して、とうとう合格して、今ではある大学の准教授までやっていま  
す。

あなたの相談の中には「夢」という言葉が何度も出てきますが、夢はしよせん叶わないものだ  
から「夢」なのです。

本当に何かになりたい、何かをしたいと思うのであれば、それを「夢」のままで終わらせずに、  
しがみついてもやり遂とぎげる覚悟がないといけない。しかも、そうやってしがみついても、結局、  
才能がないという事実<sup>じじつ</sup>に直面するかもしれない。

たとえば世の中には小説家になりたいという人はたくさんいます。しかし、その中で何もかも振り捨てて、家族を捨てても小説を書きつづける人はめったにいない。たいていの人は途中で障害を乗り越えられずに挫折してしまいます。また、本人は諦めたくなくとも、自分に才能がないのではないかという思いに囚われて、筆を折る人もいる。

もちろん小説と医療とは、まったく世界が違います。しかし、何かになりたいという思いにおいてさほど変わらないと私は思います。

そこであえて厳しいことを言いますが、あなたの相談文からは「意志」を感じられません。何が何でも医師になりたいのであれば、入りたくもない大学に籍を置いて、無駄な学費を親に払わせる必要はありません。自分一人でアルバイトでもしながら勉強はできるのではないですか。

しかも、医師になったかかったと言いながらも、一方では復学して人並みに就職したいのにそれもできないと嘆いている。どちらつかずです。結局、あなたの医師になりたいという希望は「夢」でしかないと思います。

どんなことでも夢を現実のものにするには意志が必要です。

しかし、あなたにはその意志が感じられません。ひよつとしたら、親御さんが「医者になつてほしい」と望むので、あなたも「医学部に入らねば」と思い込んでいるだけではないかとも思います。

とにかく、このままでは医学部に入るのも、就職するのも、どちらを選んでもうまく行かない

でしようし、後悔こうかいが残るだけです。まず、あなた自身で決断をし、覚悟を決めることです。

本当にやりたいことがあれば、しがみついて

でも努力を続けなさい。そうでなければ、た

だの「夢」です。

## 水子供養の正しい仕方を教えてください。

結婚をして八年になる主婦ですが、過去に二回、墮胎だたいをしています。相手は今の主人ですが、その頃は私も主人も子どもを育てられるほどの精神力も経済力もなかったので、墮胎手術を選択しました。その後、お寺に行き水子供養くまうをしていただきましたが、流産と墮胎とは同じ水子とはいえ、供養のやり方はまったく違うのではないかと思うのです。私のように墮胎をした場合、どのような供養をすればよいのでしょうか。教えてください。(二〇代女性 主婦)

あなたは妊娠中絶をしたことをたいへん悔くやんでおられます。たしかにその後悔はよく分かりますし、この世に生まれることなく亡なくなってしまった幼子こなごの菩提ぼだい(冥福めいふく)を祈る気持ちも当然だと思います。

しかし中絶が即、罪になるかといえ、これはとてもむずかしい話で、一言で片付けることはできない問題です。

今から三二年前、フランスの女流作家で思想家でもあったシモーヌ・ボエヴォールが、そのパートナーでもあった哲学者のサルトルと一緒に来日したことがありました。

あなたのような若い人はご存じないかもしれませんが、当時はボエヴォールといえばフェミニズムの原典となった『第二の性』や数々の自伝的小説の著者として、世界的に影響力を持った女性でしたから、その彼女が来日したと聞いて、私を含めた女流文学者たちで一席を設けて文学談義をすることにしました。

ところが、彼女は席に着くなり「今回、私が日本に来たのは、この国に人工妊娠中絶の自由があるので、その実態を研究するためなのです」と宣言して、フランスでは宗教的な理由から墮胎が禁じられているために、どれだけの女性が傷つき、苦しんでいるかを力説したのでした。当時の日本人の感覚からすれば、「日本よりはフランスのほうがずっと女性解放が進んでいる」という印象があったのと、文学の話をするつもりが、思わぬ演説を拝聴することになったので私たちはちよつと度肝を抜かれた感じになったものです。

それはさておき、たしかに今でもアメリカの一部をはじめとして人工妊娠中絶が禁止されている国や地域があります。そうした国に住む女性から見れば、中絶が自由にできる日本の女性は恵まれていると思うのでしょうか。

しかし日本の女性たちの中には、あなたのように墮胎したことを後悔して、罪の意識を持って暮らしている人がたくさんいます。さらに、妊娠何週目から、胎児が生存の権利を持つかについても意見が分かれているのも事実です。

ですから、私自身としてはあなたが二度、墮胎したことについては、それが悪いとか罪であるとか単純に決めつけたり、責める気はありません。しかし、やはり生まれてくるはずだった命を世に送り出してあげられなかったことに対して、あなたが今でも気が咎めているというのは当然のことだと思えます。

ただし、そうした女性の気持ちにつけこんで、「水子供養をしないと祟りがある」「お祓いをしないと悪いことが起きる」といって、お布施を強要したり、あるいは高い水子地蔵を建てさせるようなお寺が多いことには憤りを感じずにはいられません。

本当の供養というのは、そうやってお布施を出したり、あるいはお地藏様を寄贈することではなくて、亡くなった子どものことをあなた自身がずっと忘れずにいてあげることです。そうして思い出してあげることが、亡くなった赤ちゃんの魂を供養することなのです。「あなたを産んであげられなくて、育ててあげられなくてごめんなさいね」と思うだけで十分です。

亡くなった赤ちゃんはすでに仏様になっただけです。仏様が生きている人を恨んだりするわけがないじゃないですか。

世の中には、何もしないと霊障があるとか、因縁がどうか言っただけ脅す人がいますが、そん

な言葉に耳を貸す必要はありません。あなたのその気持ちだけで十分です。

**本当の供養とは「忘れない」こと。**

私は仕事運が悪いのでしょうか。

一流大学を卒業後、一流企業に入社し、会社でも仕事を評価され、海外留学も経験しましたが、約一〇年前に会社が合併してからというもの、いいことがありません。

最初に入社した企業は他社と合併し、そのため自分の将来に展望がなくなったので、同業の外資系会社に転職しました。ところがその新しい会社で今度は、自分の担当している仕事は業務縮小になってしまいました。そのため自分の力を発揮しようにも、それにふさわしい大きな仕事がなくなり、いまだに部下もいない状態です。

どうしてこんなに仕事運が悪くなったのでしょうか。今では仕事に前向きになれず、悶々もんもんとしております。アドバイスをお願いします。(四〇代男性)

これは結論からいえば、運が悪いとか、上司や部下のせいにするのではなく、「今の状況は自分自身が招いたもの」と謙虚けんこに反省すべきです。

あなた自身が書いておられるように、あなたは若い頃には頭もよく、だからこそ立派な会社に入って、そこで大きな仕事も与えられてきたのでしょう。しかし、そんなことは「過去の栄光」です。なのに、それをいまだに引きずっているために、プライドが邪魔をして今のようないき詰まりに至ったと私は思います。

そもそも、あなたは自分自身で「一流大学」「一流企業」と書いていますが、そんな言葉をこのような場で平気で言えるということ自体、あなたはデリカシーが欠けています。仕事ができる人は、他人に対して自慢などしたりしないものです。ましてや学歴自慢など、無神経にもほどがあります。

本当に頭がよく、仕事ができる人は、自分の仕事が成功したのは自分だけの手柄ではなく、部下や同僚、上司などの協力があったることだと分かっているから、自然と謙虚になるものです。

しかし、あなたはそんなことが分からないままに大人になってしまったから、きつと合併先の会社でも、また転職先の会社でも昔のことを自慢してきたのでしょう。それでは周りの人は反感

こそ覚えても、誰もあなたと一緒に仕事をしようとは思いません。今、職場で孤立してしまったのは、まさに身から出た錆さびです。

でも、幸いなことにあなたは今、「こんなはずじゃなかった」とうろたえています。口には出さなくても「どこか自分が間違っていたのではないか」と思っているからこそ、恥をしのんで、相談をしようと考えたのではありませんか。そう思っているところに、まだあなたのチャンスが残されていると言えるでしょう。

といつても、もう四〇歳を過ぎたあなたがそうそう簡単に変わるわけではありません。おそらくあなたは学校時代は受験勉強を一心不乱いっしんふらんにしてきて、小説も読まず、映画もろくに見てこなかったのではないでしょう。

あなたはたしかに頭はいいでしょう。しかし、人生は大学入試のように答えは一つではありません。むしろ、そもそも正解などないのがこの世の中なのです。一〇〇人の人がいれば、一〇〇通りの考え方、感じ方がある。その中で他人と折り合いをつけて暮らしていくのが人生なのです。ですから、まずは他人の気持ちおんじを慮おぼやる心を養やしなわないと、これからもきつとうまくいかないでしょう。でも、不幸中の幸いにも、今、あなたは人生で初めて挫折ざつせつを感じて、苦悩を味わっています。その経験を生かすことです。つまり、あなたが今、苦しみ、悩んでいるようにあなたの同僚や家族もまた、悩みや不幸を抱えているのだと気付くことです。

不幸なのはあなただけではない。みんなが等ひとしく不幸なのだと思ふことがすべての始まりであ

るといのがお釈迦様の教えの基本です。ですから、悩み、苦しんでいる今こそが、あなたのチャンスだとも言えます。

と言っても、ではどうやってこれから変わっていかばいいか、今のあなたには分からないでしょう。そこで大事になってくるのが小説や映画といった芸術作品に接することです。そこにはたくさんの人たちの苦しみや、悲しみが描かれています。

成長には時間はかかるかもしれませんが、うまい具合に今は仕事がありませんのでしょう？ だったら、とにかくたくさんさんの芸術作品に触れる努力をしてもらいなさい。芸術や教養は心を育てる最高の栄養です。すべてはそこから始まると私は思います。

.....

**本当に仕事ができる人は感謝する心を知って**

.....

**います。頭のよさだけでは世間は渡っていき**

.....

**ません。**

.....

## 中学受験に失敗した娘に対して、どうしたらいいでしょう。

この度、娘が中学受験をしたのですが、実力を発揮できず、合格できませんでした。

昨秋、夫と離婚をして、それ以来、ずっと母と子で支え合って努力してきたのに、なぜこんなことになったのかと後悔ばかりです。娘もなぜ自分ばかりが、と神仏に問うています。

長い人生において、たかが中学受験とも思いたいのですが、母子二人、合格を目標にすることが支えでした。どうか、先生のお言葉を私たちにください。  
い。(三〇代女性 会社員・経理)

私にはあなたがお子さんの中学受験になぜそれほどこだわるのかが、まず理解できません。

たしかに最近は教育崩壊で、公立中学校よりも中高一貫の私立学校に行かせる親が増えている

と聞いています。

しかし、たとえどんなに立派な中学校に入ったとしても、それで子どもの人生が保証されるわけではありません。高い学費を払って私立に通わせても、そこで悪い友だちができて不良になつて中退する子どもだっているでしょう。似たような家庭の子どもが通う私立よりも、さまざまな子どもが集まる公立の中学校に通ったほうが、むしろ人生勉強になるかもしれないではありませんか。

あなたの相談によれば、お子さんも中学受験に失敗して挫折感を味わっているようですが、そのように思われたのは、結局のところ、お母さんであるあなたではないでしょうか。相談文を読んでいると、むしろ中学受験に執着しているのはあなたではないかと思えてなりません。

前項の発達障害のお子さんの話とも関連しますが、子どもはけつして親の持ち物ではありません。ん。

今はたとえ幼くて頼りなく見えても、いつの間にか子どもは育つて、巣立っていくものです。それなのに、親が勝手に子どもの進路について、あれやこれやと干渉するのは、親心ではなくて結局はエゴにすぎません。

あなたがお子さんの進学に執着する心の中には、別れたご主人に対する復讐心や、あるいは母子家庭であることに対する無用な引け目があるからではないでしょうか。自分の胸によく手を当ててお考えなさい。あなたのような親御さんでは、お嬢さんがかわいそうです。



寂聴辻説法 瀬戸内寂聴著

発行・集英社インターナショナル 発売・集英社

定価 1,400 円（税込）

ISBN 978-4-7976-7204-6

ウェブでのご注文は [こちらにどうぞ！](#)